

目指す学校像	教職員がチームワークを大切にし、創意と活力に満ちた、安全で美しい学校づくりに努める		
重点目標	1 「じょうほくの教育」の推進（丈夫な心と体づくり、個性の伸長、学力の向上） 2 安全で美しい学校づくり（教育相談体制の充実、安全教育、安全管理の徹底） 3 地域に開かれた特色ある学校づくり（学校運営協議会等の有効活用） 4 教職員の協力体制の確立（学習指導・生徒指導の情報共有及び主任を中心とした連携体制の構築）		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和5年2月13日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○令和3年度の全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の「算数の勉強は好きですか」の項目では、肯定的な回答が全国・県・市の平均より15ポイント以上下回っている。 ○令和元年度のさいたま市学習状況調査では、国語・算数共に、正答率が市平均より大きく下回っている。 ○日頃の学習の様子では、意欲的に学習に取り組む児童も多いが、集中力を欠いてしまう児童も少なくない。 〈課題〉 ○学習全般に対する興味・関心が高まっておらず、児童が学習をすることの意義を実感できるようにすることや達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 ○基礎・基本的な学力の確実な定着を図ること。	・1人1台の端末を活用した授業の工夫・改善と、繰り返し学習の実施 ・学習への興味・関心を高め、達成感や充実感を味わえるような授業の工夫・改善	①「朝の学力アップタイム」を毎週水曜日に確実に実施し、繰り返し学習することで基礎・基本的な学力を向上させる。 ②1人1台の端末で、ミライシードのドリル学習やスタディサプリを活用し、個別の結果を解析しながら「計算力・漢字・国語力」を向上させる。	①学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、基礎学力に関するABの総計が昨年度の数値以上となったか。 ②市学習状況調査（算数）の平均正答率が令和元年度の数値以上となったか。	①学校評価の基礎学力に関する項目で、児童が87%、保護者は80%が肯定的な回答であった（昨年の数値は児童84.8%、保護者83.5%）。 「朝の学力アップタイム」では、各学年ごとに共通の教材を使用するように改善し、計画的に実施できた。 ②市学習状況調査（算数）の平均正答率は令和元年度比+1.1%となった。 タブレットについては、授業のまとめ学習や自主学習、家庭学習等において活用は進んでいるが、成果には結びついているかは、今後さらに研究を進めていく。	B	・タブレットについてはまとめ学習や自主学習だけでなく、授業で「ノートや鉛筆のように」効果的に活用できるよう、研究・実践に取り組む。 ・「朝の学力アップタイム」や授業開始時の「基礎学力アップタイム」等の充実・改善を図り、継続して取り組んでいく。
2	〈現状〉 ○令和3年度の学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、「喜んで登校しているか」の質問に肯定的な回答をした児童は77%、保護者は88%である。児童の肯定的な回答が令和2年度の91.2%より大きく下回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因と考えられる児童のけがは発生しなかったが、施設の老朽化が目立ち始めている。 〈課題〉 ○コロナ禍でのストレスや生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も児童一人ひとりの状況を把握し、支援・相談していく体制づくりが課題である。 ○児童のけが防止のためにも、危険な箇所について修繕を進め、また、児童にも自ら危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・施設・設備の管理の徹底による安全で安心な教育環境の充実	①情報端末を活用して、児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育相談に係る校内委員会で蓄積した情報を基に、児童の状況を細やかに把握、分析することで、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。	①学校評価に係る教員のアンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、保護者の項目「先生の信頼」についてと児童の項目「先生に相談」について、肯定的な回答が90%以上となったか。	①学校評価の教職員の指導に関する項目で、教員の100%が肯定的な回答であった。 児童のアンケート結果や普段の生活の様子をしっかりと把握し、必要に応じて個別面談を行うなどしながら、一人ひとりの児童に寄り添った指導を行った。 ②学校評価の保護者の「先生の信頼」に関する項目で、保護者の83.7%が肯定的な回答であった。また、児童の「先生に相談」に関する項目で、児童の90.1%が肯定的な回答であった。 生徒指導部会や教育相談部会において、児童についての情報共有を行い、対応について話し合うなどして、組織的に問題解決に向けて取り組んだ。	B	・担任だけでなく、学年・学校全体で組織的に問題解決できるよう、生徒指導・教育相談の体制を強化していく。 ・報告・連絡・相談・見届けを徹底し、情報共有を確実に行う。 ・一人ひとりの児童に寄り添った指導が行えるよう、児童が相談しやすい環境を整える。
3	〈現状〉 ○昨年度、本校学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す児童の姿について確認をした。学校・家庭・地域が協働して何ができるのかについて話し合った。 〈課題〉 ○今年度は、昨年度の学校運営協議会準備委員会で話し合われた「城北小学校の児童に身に付けさせたい力」について、より深く熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・児童・保護者・地域の参画・協働に基づいた信頼される学校づくりの充実 ・家庭・地域への積極的な情報発信と学校公開	①学校運営協議会を年3回実施する。熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組を進めていく。 ②信頼される学校づくりの実現に向け、教職員に教職員事故や授業実践等に関する研修を実施し、教職員事故の防止や「よい授業」を実践する。	①学校運営協議会において、実現に向けた方策を打ち出し、継続的な取組を進め始めることができたか。 ②学期に1回の研修を実施し、教職員事故を起こさないための取組や、「よい授業」を意識した授業を実践できたか。	①学校運営協議会を3回実施し、本校の課題や子どもたちに身に付けたい力等について、熟議を行った。その中で挙げられた意見を受け、その目標を達成すべく、日々の教育活動に取り組んだ。 ②資料を用いた教職員事故に関する研修や日々の注意喚起を行ってきた。教職員事故の発生はゼロである。 教員は「よい授業」の実践に向けて、4つの因子を常に意識しながら、教材研究や授業に取り組んだ。また、アンケート結果を分析し、自身の指導力向上に努めた。	B	・学校運営協議会を充実させ、本校の目指す児童像の具現化に向けて熟議し、学校と家庭・地域が協働しながら、取組を進めていく。 ・教職員の信頼向上のため、定期的に教職員事故防止や「よい授業づくり」のための研修を行っている。
4	〈現状〉 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末等のICTの活用方法についてエバンジェリストが中心となって研修を重ねてきた。 ○働き方改革の推進により、時間外在校時間について改善されてきている。 〈課題〉 ○授業等でのICTの活用について、教職員間で差がある。 ○時間外在校時間について、教職員間で差がある。	・若手教員の指導力向上と教職員のICT活用能力の向上 ・教職員の働き方改革の推進	①放課後に不定期で短時間のミニ研修会を実施するなど、研修の機会を増やす。特にタブレット端末の活用法については、ICTリテラシーが高い若手教員が講師となって実施する。 ①校務の整理、行事の見直し、簡略化、精選を運営委員会等で行う。また、時間外勤務時間を昨年度より減らすために、日報や口頭で意識化を徹底する。	①学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、「授業が楽しい」に関するABの総計が昨年度の数値以上となったか。 ①時間外勤務時間について、月平均45時間以内の職員の割合が昨年度以上になったか。	①学校評価の「授業が楽しい」に関する項目で、児童が82%、保護者は81.6%が肯定的な回答であった（昨年の数値は、児童が81.3%、保護者は84.1%）。ICTリテラシーが高い若手教員が講師となって、タブレットの活用法などの研修会を実施し、すべての教員がICT機器やタブレットを活用した授業を積極的に展開した。 ①12月末日現在、時間外勤務が月平均45時間を下回った職員は74.4%である（昨年度は71.1%）。教材・教具の共有や行事の精選、会議の効率化等を進めた結果、時間外勤務の時間を削減することができた。	B B	・授業への興味・関心を高める一つの手段として、児童の実態に応じた効果的なタブレットの活用方法について研修を進め、全教員が毎日授業で積極的に利用できるようにする。 ・引き続き、教材・教具の共有や行事の精選、会議の効率化等を進めていく。 ・教員によって校務分掌の業務量等に偏りが出ないよう、組織的に取り組んでいく。

・児童のあいさつができるようになってきた。大人からも積極的に挨拶をしていくとよい。
・体力や運動能力が低下しているためか、けが多いように思える。体力向上のための取組を工夫するとよい。

・ヒヤリハットについて、児童会で取り組むとよい。
・様々な家庭環境がある中、子どもが大人に悩みを相談できるかがカギである。相談できる環境づくりを進めてほしい。

・家庭にコンピュータやネット環境がない児童への配慮が必要である。
・すべてタブレットで授業を行うのではなく、書く活動も大切である。適材適所でタブレットを使用させたほうがよい。

